

## [カンショ]

### 1. 作付の概況

2015年度の全国の作付面積は36,600ha、このうち九州は17,900ha、沖縄は263haであった。前年度に比べ、全国では1,400haの減、九州では1,200haの減、沖縄は変わらずであった。九州・沖縄においては、前年度比で減少あるいは横ばいの県が多いが、大分県では昨年引き続き作付面積が増加し前年比102%となった。全国の10a当たり収量は2,220kgで、前年産との対比で5%下回った。これは、九州地域において6月から9月にかけての低温・日照不足などによりいもの肥大が抑制されたためである。収穫量は814,200tで、前年産に比べて72,300t減少した(同8%減)。

### 2. 作柄の概況

鹿児島県では、生育期間を通じて平均気温は低めに推移し、6月中旬～7月中旬および8月下旬～9月中旬で平年比で1℃以上低く、特に6月下旬～7月上旬は平年比で2～3℃低く、3月～11月の積算平均気温はほぼ平年並みであった。降水量は平年よりかなり多く、特に5月中旬、6月上旬～7月上旬、7月下旬および8月下旬～9月上旬はかなり多かった。日照時間も6～7月は平年より少なく推移し、特に6月中旬～7月上旬は平年の半分以下となり、積算でも平年より下回った。このため、地上部の生育やいもの肥大は悪かった。本年の鹿児島県の10a当たり収量は2,380kgで、前年産を5%下回り、平均収量対比は91%と低かった。また、収穫量は295,100tで、前年に比べて41,200t(12%)下回った。

宮崎県では、生育期間を通じて平均気温は低めに推移し、6月中旬～7月中旬および9月中旬で平年比で1℃以上低く、特に6月下旬～7月上旬は平年比で2～3℃低く、3月～11月の積算平均気温はほぼ平年並みであった。降水量は平年より多く、6～7月および8月下旬はかなり多かった。日照時間も6～8月は平年より少なく推移し、特に6月中旬～7月上旬は平年の半分以下となり、積算でも平年よりやや下回った。このため、地上部の生育やいもの肥大は悪かった。宮崎県の10a当たり収量は2,470kgで、前年産を6%下回り、平均収量対比は95%と低かった。収穫量は85,000tで、前年に比べて9,100t(10%)減少した。

(九州沖縄農業研究センター畑作研究領域 高畑 康浩)

2015年度カンショ作付面積と収穫量

区分	作付面積	10a 当たり 収量	収穫量	前年産との比較				
				作付面積		10a当たり 収量	収穫量	
				対差	対比	対比	対差	対比
(ha)	(kg)	(t)	(ha)	(%)	(%)	(t)	(%)	
全国	36,600	2,220	814,200	△ 1,400	96	95	△ 72,300	92
九州	17,900	—	—	△ 1,200	94	—	—	—
福岡	149	—	—	△ 4	97	—	—	—
佐賀	95	—	—	△ 4	96	—	—	—
長崎	355	—	—	△ 56	86	—	—	—
熊本	1,070	2,220	23,800	△ 30	97	98	△ 1,200	95
大分	362	—	—	8	102	—	—	—
宮崎	3,440	2,470	85,000	△ 150	96	94	△ 9,100	90
鹿児島	12,400	2,380	295,100	△ 1,000	93	95	△ 41,200	88
沖縄	263	—	—	0	100	—	—	—

注)平成27年産かんしょの作付面積及び収穫量(農林水産省大臣官房統計部 平成28年2月2日公表)に基づいて作成